

ALHΘEIA

豊橋技術科学大学付属図書館報

新生を迎えて／福岡秀和.....	1
知の泉を楽しみながら、 図書館を大いに活用しよう.....	2
新生を迎えて／牧清二郎.....	6
チャンスをつかめ／滝川浩史.....	6
新生に向けて／吉村あゆみ.....	7
新生に向けて／金原 真.....	7
図書館利用のすすめ — “攻め” の図書館利用法／美野部亜紀.....	8
退官にあたって／北川 孟.....	9
Information.....	10
図書館利用マナー 10 箇条.....	11
TUT-L NEWS.....	12

特集 新生を迎えて — 図書館案内 —

新生を迎えて

福岡秀和

新生及び編入学生の諸君、ご入学おめでとう。豊橋技術科学大学の附属図書館は24時間開館して諸君の利用を待っています。諸君もすでにご存知の通り今わが国の教育全般にわたって戦後以来という大きな改革が行われつつあります。特に大学教育については、教官の研究に重点を置く「教官中心の大学」から学生の教育・指導に重点を移した「学生中心の大学」への視点の転換が求められています。これは優れた人材の育成が国家の将来を決める決定的な要素であることが社会全体の合意として認められたということでもあります。学生中心の大学への転換ということは、大学の側からすれば学習する側である学生の立場に立った改革が必要であるということなのですが、学生の側としては単に受身の姿勢で講義を受けるというのではなく、自ら学び、学生の意見や希望を真摯に大学側に伝えなければならないということであって、このような両者の姿勢が噛み合ってはじめて大学の運営に学生中心の考えが反映するのであります。そのような意味で学生諸君が勉学の目的を含めて大学生活に対してしっかりした自分の目標・意見というものを持たなければなりません。それには広い視野と見識を持つことが必要ですが、そのためにも大いに図書館を利用して頂きたいのです。広い視野ということでは、テレビなどのマスメディアから日々多量

の情報が流され、社会が抱える深刻な問題でさえ十分に噛み砕いて分かり易い映像で示されて極めて容易に頭に入ってきます。ただ、容易に入ったものは、また、容易に記憶から消え去るのではないのでしょうか。それに対して、自らの努力と想像力を駆使してイメージを作り上げなければならない読書で得た知識は、諸君の教養として長く記憶にとどまるはずで

す。諸君が本学にいる間に読書の楽しみを是非身につけていただきたいと思います。読書ほど気が置けない楽しみはありません。いつ、どこでも、たった一人で、誰に迷惑をかけることも無く、気ままに楽しむことができます。古典といわれるような一冊の小説を読むことは、その主人公の一生を経験することになります。また、古今東西の偉大な作家や思想家と読書を通じて対話することができるというのは、考えてみればすばらしいことです。このような楽しみが、図書館に来ればただで味わうことができます。こんな安上がりで大きい楽しみはほかにはありません。読書の楽しみを身につけることによって、より充実した人生を送ることができるということは間違いありません。どうか、読書の習慣を身につけ、本学において、健康で、明るく、充実した学生生活を送られることを切に願っております。

(副学長)

新入生の皆さん！

知の泉を楽しみながら、図書館を大いに活用しよう

図書館は、教職員と学生の皆さんが研究と教育に必要とする資料（情報）を収集、保存し、利用しやすいように整理し提供しています。図書16万冊、雑誌3千7百種を初め、視聴覚資料、CD-ROM、パソコン、グループ研究室、情報検索システム、複写サービスなどが利用できます。

また、本学図書館は、24時間開館サービスをしており、年間を通じて特別な日を除き閉館日はありません。年末年始を含め、四六時中利用できるようになっていました。これも、皆さんの利便性を考えてのことです。

本学に入学された皆さん、図書館を大いに活用し、知の泉を楽しみながら学習・研究に邁進してください。

1. 開館時間

月～金曜日	0:00～8:30 特別開館	9:00～20:00 (17:00) 通常開館	20:00～24:00 (17:00) 特別開館
土曜日	0:00～12:30 特別開館	13:00～17:00 通常開館	17:00～24:00 特別開館
	「8月」と「3月25日～4月3日」の土曜日は、終日「特別開館」		
日曜日・祝日 開学記念日(10.1) 年末年始	0:00～24:00 特別開館		

- ・（ ）内は、春・夏・冬期の各休業期間中の時間です。
- ・特別開館は、無人対応です。視聴覚室、グループ研究室等は利用できませんが館内の資料は自由に利用でき、貸出・返却もできます。また、複写機、パソコン（ノートは除く）等の使用も可能です。

2. 入館、入室方法

通常開館では、玄関から入館し入室ゲートを通ります。このゲートは、IDカード（学生証または身分証明書）をゲートのリーダーに読み込ませて通ります。従って、IDカードを携帯していないと入室できません。

特別開館時の入館については、IDカードと各自のパスワードが必要です。この特別利用の入館方法については、4月の「図書館利用ガイダンス」で説明します。このガイダンスを受講しないとパスワードが与えられません。パスワードが与えられないと特別利用ができませんので注意してください。

特別開館は、無人で運営されており図書館職員はおりません。通常開館時とは利用方法が種々異なりますが、このこともガイダンスで説明します。利用に支障が生じないよう必ずガイダンスを受けてください。

なお、館内での飲食はもちろんのこと、持ち込みも禁止されています。喫煙も厳禁です。携帯電話の使用もできません。私語・雑談も慎んでください。図書館の利用にあたっては、規則を遵守し館内の環境保持に協力してください。

3. 図書・文献等の利用

(1) 館内利用

館内の図書・文献等は、書架から自由に取り出して利用できます。利用後の資料は、配列の順序を乱さないように元の位置に戻してください。

雑誌は和雑誌、洋雑誌とも誌名のABCおよび巻年順に配列されています。図書はラベルの「請求記号」順に並んでいます。

(2) 館外貸出利用

館外貸出利用を希望する図書等は、学生証等を添えてカウンターで手続きしてください。カウンター横の「自動貸出返却装置（ABC）」で手続きすることもできます。

雑誌・新聞及び禁帯出図書は館外利用はできません。

(3) 貸出冊数および期間

利用者	冊数	期間
学 生	7冊以内	20日以内
教 職 員	10冊以内	30日以内

返却期限を守ってください。返却期限内に返さなかった場合、延滞日数に相当する期間を、ペナルティーとして図書等の貸出禁止の措置がとられます。

(4) 図書等の返却

返却カウンターに提出するか、自動貸出返却装置（ABC）で返却処理をしてください。閉館日及び図書館職員のない時に返却したい場合は、玄関横の「図書返却ポスト」、またはゲート横の「図書返却ポスト」に入れてください。

(5) 予約

借りたい図書等が貸出中の場合、予約することができます。カウンターで申込み手続きをしてください。また、OPAC（蔵書検索専用端末）の検索画面から直接自分で予約することもできます。

(6) 視聴覚資料の館外貸出利用

学生、教職員とも、3点まで、3日間です。カウンターに、貸出を希望する視聴覚資料を提示し、「視聴覚資料貸出簿」に必要事項を記入してください。

返却する時も、カウンターに提出してください。

4. 館内利用案内

(1) カウンター

図書館の利用に関して、分からないことは何でもカウンターに尋ねてください。図書の貸出、ノートパソコンの使用、視聴覚室の利用などの諸手続き、図書館利用に関する相談に応じています。

また、図書館を利用して、気づいたこと、意見、要望なども何う所です。図書館で購入してほしい図書なども遠慮なくどしどし申し込んでください。希望の図書は収書方針に沿って審査しますが、できるだけ購入する方向で検討します。

図書館は、いつでも利用者の皆さんからの忌憚のない意見等をお待ちしています。

(2) レファレンスサービス

レファレンスでは、図書館の文献・情報等を的確に効率よく利用できるよう、さまざまな相談に応じています。図書館資料の利用方法、文献資料の検索、所蔵調査、事項調査、二次資料の使い方、電子ジャーナル、他の図書館の資料所在検索及び借用依頼、文献複写依頼など、文献資料や情報に関する相談に応じています。ご利用ください。

(3) 資料の探し方

OPAC用のパソコンが図書館各階に設置されています。書名や著者名、キーワードなどから、文献資料の所蔵が検索できます。

(4) 学外資料の取り寄せ

本学に必要な資料がないとき、他の図書館から資料のコピーを取り寄せたり、図書を借りたりすることができます。

複写料金は、「1枚35円+送料」です。図書の借用は、「送料」が必要です。

(5) 他大学図書館等の利用

他大学等の図書館を利用したい場合には、紹介状（学部学生のみ。教職員及び大学院生は身分証明書または学生証で利用できます。）が必要ですから申し出てください。

5. 複写機の利用

(1) コイン式白黒コピー機（1階・階段横）

私費用です。誰でも自由に利用できます。1枚10円です。（図書館では両替はできません。）

(2) カラーコピー機（1階・カウンター前）

校費用です。ゼロックスカードが必要です。教官は図書館から配布された各自のカード、学生は指導教官からカードを受け取りコピーしてください。OHPシートを使用する場合は持参するか、カウンターまで申し出てください。

(3) 白黒コピー機（2階）

校費用です。利用方法は、1階カラーコピー機と同様です。ただし、このコピー機はOHPシートは使用できません。

6. パソコン

(1) デスクトップ型パソコン（1階・2階）

自由に利用できます。

(2) ノート型パソコン

カウンターにIDカードを提示の上、申し出てください。カードと引き換えに鍵を渡しますので利用簿に必要事項を記入の上利用してください。

利用後は元の状態に戻し、鍵をカウンターに返却してカードを受け取ってください。

(3) OPAC (蔵書検索専用端末) (各階)

自由に利用できます。

(4) CD-ROM専用端末・CA専用端末 (1階)

利用の際は、カウンターに申し出て利用ノートに必要事項を記入のうえ、利用してください。利用後は、終了時間を記入してください。

7. 施設の利用

館内には以下の施設があります。利用を希望する際はカウンターに申し出て、所定の利用申込書に必要事項を記入の上、予約手続きをしてください。予約は先着順です。

なお、予約が入っていないときは、当日利用もできます。カウンターで手続きをしてください。

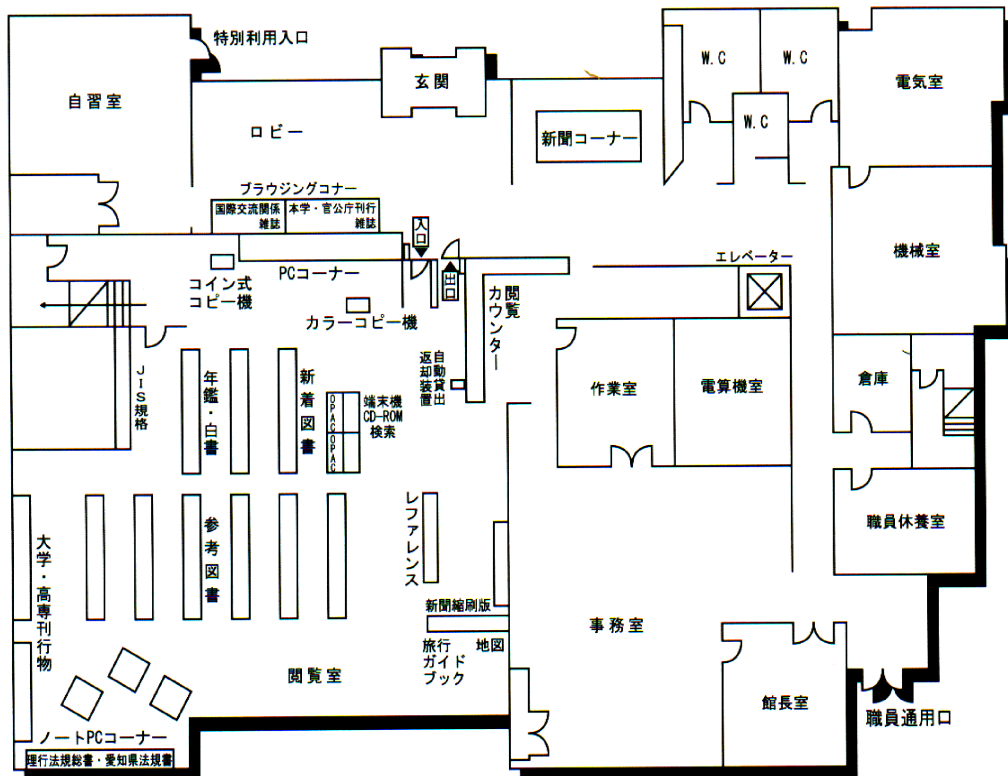
室名	室数	人数	設備	備考
研究個室	2	1		1週間以内
視聴覚個室	2	1	TV・VTR (VHS)	2時間以内
グループ研究室	1	23	TV・VTR (VHS)	2時間以内
小グループ研究室	1	5		3時間以内
PC英語学習室	1	3	語学学習用 PC(DVDドライブ搭載) 3台	利用登録者
視聴覚室	1	16	TV・VTR (VHS) CD・LD・DVD・衛星放送	2時間以内
会議室	1	16		教職員のみ
自習室	1	24		利用は自由

その他、エントランスホールにはブラウジングコーナーがあり、新聞各種、本学及び文部科学省刊行物、国際交流関係雑誌、地方公共団体広報誌などの読み物があります。

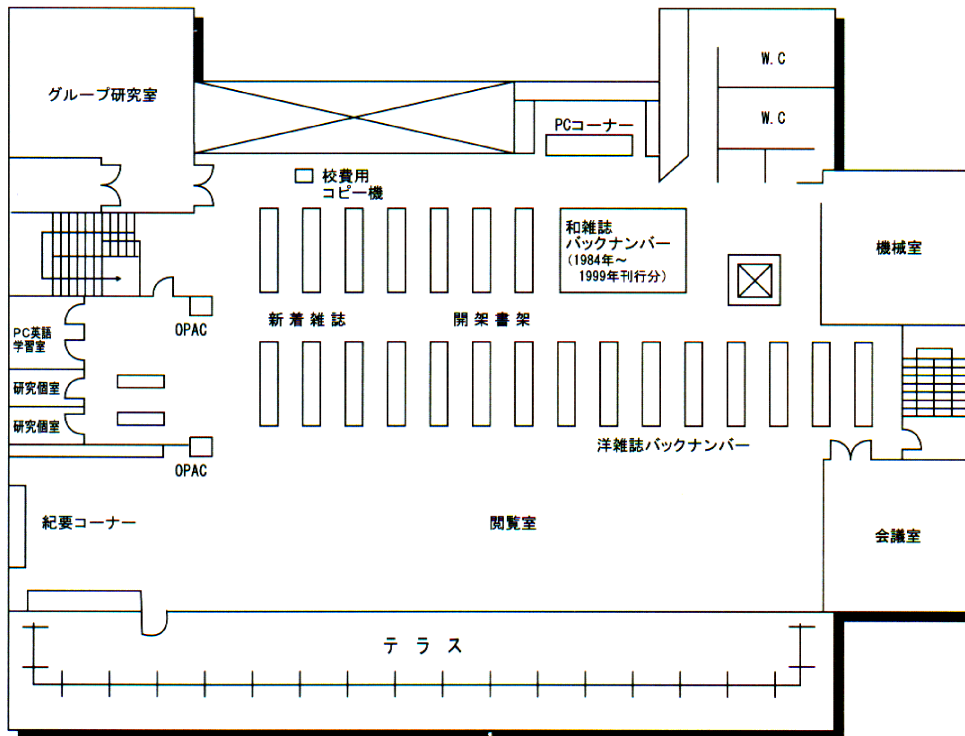
勉学及び研究の合間の、休息の場所としてもご利用ください。

8. 図書館配置図

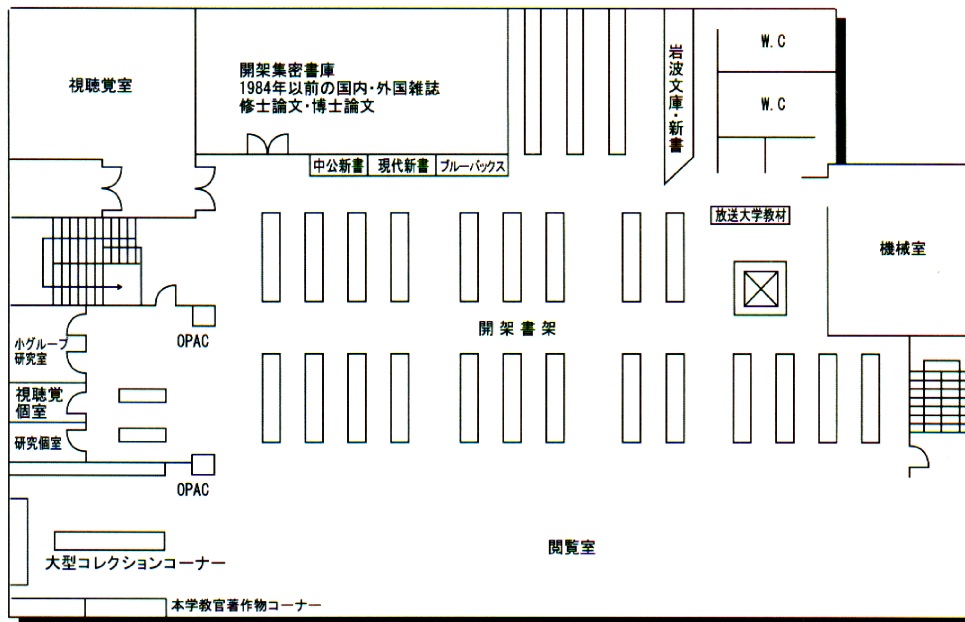
【1階 参考図書・カウンター・レファレンス・デスク】



【2階 洋雑誌・和雑誌・紀要】



【3階 一般図書・教養図書・新書・文庫】



9. その他

図書館では、図書館の利用案内パンフを用意しています。また、ホームページも開設し、常に新しい情報を提供しています。ご利用ください。

その他、図書館に関する不明な点は、どんなことでも結構です、1階カウンターまで気軽にお問い合わせください。

新入生の皆さん、皆さんが有意義な学生生活を送ることができるよう、図書館職員一同応援させていただきます。

(図書課)

新入生を迎えて

牧 清 二 郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学の図書館利用に際して、役立ちそうなことを少し紹介させていただきます。

図書館にインターネットにアクセスできるパソコンがコーナーを設けて設置されていることを、皆さんはご存知ですか。1階に18台、2階に12台あります。ITの進歩とともに電子図書（CD）が増えつつありますが、これを見るためのパソコンも設置されています。

皆さんの中には、図書館で本を探すのに苦労した経験をお持ちの方も多と思います。本学の図書館1階には、新着図書、辞書や事典などの参考図書、科学技術文献速報、J I S規格などが、2階には学術雑誌が、そして、3階には教科書や参考書などが分野別に開架されています。分野別に開架されているとは言え、欲しい本を探すのは容易ではありません。そこでお奨めしたいのが蔵書検索です。端末は各階にあります。操

作は簡単です。本の題名、あるいは著者名だけで十分に検索できます。蔵書であれば、所在、背表紙のラベルに記された請求記号（番号とアルファベットによる記号）が分かります。請求記号さえ分かれば、本はそれによって整理、開架されているので、簡単に見つけられます。本当に便利です。一度、試してみてください。もし読みたい、あるいは見たい本が蔵書にないときは、図書購入希望票に記入して、投函下さい。購入していただけると思います。

最後に、本学の図書館が24時間開館していることを、皆さんはご存知ですか。深夜、日曜祝日は無人開館ですが、何時でも利用できます。利用規則を守って、図書館を大いに活用して下さい。皆さんの技科大での学生生活が有意義なものになりますようお祈りいたします。

（生産システム工学系助教授）

チャンスをつかめ

滝 川 浩 史

新入生諸君、御入学おめでとう。まずは、ようやく受験というプレッシャーから開放された安堵感や、大学という新しい環境への期待感に包まれていることでしょう。

さて、インターネット等を通じ既にご存知のことと思いますが、本学のホームページに記載されている本学の特徴をかいつまんで見てみましょう。まず、多様な入学制度というのがあります。1年次入学の諸君は、普通高校、工業高校などから進学し、3年次入学の諸君は工業高等専門学校などから編入してきています。このため、本学の学生の出身地は全国が高いわけです。加えて、日本国内だけでなく、海外から多くの留学生を迎えています。本学はまさに全国・全世界の友人にめぐり合えるチャンスがあふれています。

また、大学学部課程から大学院修士課程までの一貫教育（学部定員と修士課程定員とがほぼ同数）という特徴があります。これは、実践的で創造的な能力を備えた指導的技術者の養成を行うためです。是非大学院

進学を目指して下さい。次に、教官定員が大学院教育に合わせて配置されているため、一教官あたりの学生定員は他大学に比べてかなり少なく、充実した教育研究が行われているというのも特徴です。また、国内外の研究・教育機関との交流、民間企業との共同研究、地域社会との協力事業を推進しており、他大学と比べてはるかに活発な研究活動が意欲的に行われています。

今日、技術はますます拡大・進展しています。次世代の技術を開拓するためには、既に確立されている学問体系のみならず、新しい分野も学ばなければなりません。その意味では、諸君は先人達よりも更に多くを学習しなければなりません。しかし、豊橋技術科学大学という他大学には見られない特徴を持つ大学に入学したからには、そのチャンスを十分に生かすように努力し、先駆的な技術者となることを目指していただきたいと願います。

（電気・電子工学系助教授）

新入生に向けて

吉村 あゆみ

今回は、新入生へ大学の図書館について、少し書かせてもらいます。

まず、技科大の図書館は24時間利用可能です。

しかし中には、入るためのパスワードを忘れてたり、もしくはガイダンスを受けていなく知らなかったりして、全く利用したことがないという人がいますが、遠慮なくカウンターで人に聞き、より図書館を利用して欲しいです。特別開館のときではなくて、学生証を忘れ、館内に入れられない状態になったときにも、カウンターへ一言、言ってください。

以上のように、図書館は24時間利用ですが、やはり8時以降は無人ということもあり、飲食物の持ち込みの危険もあります。

しかし、それは大学生として、きちんと守ってもらえるものだと思っています。ただ、空調も切れてしまうという不便さがあるのも事実です。冬の図書館は寒

いでしょう。その点をもっともっと利用者が増えると考えられるのではないのでしょうか。

図書館のカウンターでバイトをしていると思うのは、テスト・レポート前にはたくさんのコピーをする人、勉強をする人を見ますが、それ以外の時には本当に少ないものです。自分自身、図書館でバイトする前には図書館には行くことは行ったが周りの人たちと話して終わってしまい、勉強が進まなかったように思います。でも、それでもいいのではないのでしょうか。ただ周りの人の迷惑のかからない程度でお話ししてください。図書館ではみんなで勉強をし、家では一人で勉強を。これでどうでしょうか？とりあえず、図書館を利用してみてください。個室も簡単に利用することが出来ます。ぜひ、カウンターに声をかけてください。

(建設工学課程学部4年)

新入生に向けて

金原 真

大学生にとって、図書館は必ず利用することになる施設だ。小中学校、高校まで、ほとんど図書館(図書室)を利用せずに卒業してきた人も少なくないと思うが、大学で図書館を利用せずに卒業することは不可能だと思う。1, 2, 3年次にとっては、レポートの資料を探す場であったり、研究室に配属されてからは研究の資料を集める場に、もちろん自分の知識を広げる為にも利用する。うまく図書館を使えるかどうかで、大学生活が楽にも苦にもなるだろう。

本学の図書館は、工学系の図書を中心にした数多くの蔵書がある。1, 2, 3年次のうちは必要な本はほとんど見つかると思うが、もし本学にない本が必要なら、その本を持っている他大学の図書館から取り寄せてもらうこともできる。

また、普通の図書だけでなく、雑誌も置いてある。といっても、週刊誌や漫画雑誌ではなく、工学系の業界紙のようなものが多い。このような雑誌は、本になっていない最新の情報源になるが、興味はあっても個人で購入することに抵抗を覚える人が多いと思う。

図書館には、バックナンバーも含めてそろえてあるので、是非利用してほしい。

図書以外にも、図書館には設備がある。各種の会議室は、サークルの集まりなどによく使われている。また、インターネットにも接続できるPCも設置され、資料の検索やレポートの制作などに利用されている。

館内で分からないことがあったら、遠慮なく職員に聞いてみればよい。探したい本が見つからない、設備の利用の仕方が分からない、どんなことでも、親切に教えてくれるはずだ。

さて、新入生の方々には、守っていただきたいことがある。それは、図書館を利用するものとしての最低限のマナーである。館内では静かにする、飲食をしない、携帯電話は使わない、など、ごく普通の事ではあるが、残念ながら一部の利用者がそれを乱している。多くの人が使う場所だということを考え、"大学生"として"大人の"利用をしてほしい。

(生産システム工学課程学部4年)

図書館利用のすすめ — "攻め" の図書館利用法

美野部 亜紀

新入生の皆さん、このたびは入学おめでとうございます。いよいよ新しい生活が始まりますね。

図書館へは、もう行ってみましたか？図書館は、学内の中央、どの建物からもそう遠くない、一番良い位置にあります。それは図書館が、知識・情報の宝庫として、大学の勉強や研究に欠かせない大切な存在であり、だれもが利用する場所だからです。

私も学生の頃、図書館によく足を運びましたが、レポートや授業の調べものをしたり、雑誌を見たり本を借りるための場所、くらいにしか思っておらず、利用者として図書館を活用したとはいえません。

そこで今、図書館に勤めてみて思うのは、図書館は上手に使える、もっと便利で役に立つ場になるということです。これから利用者となる皆さんには、ぜひ効果的な利用法を身につけて図書館を十分に活用して欲しい、そのためのポイントを少しお話ししたいと思います。

ひとつめは、図書・雑誌・論文の検索や、勉強に必要なデータなどを得るために、基本的な情報収集のスキルを身につけることです。手はじめに、図書館にどんな資料があるのか見てまわると同時に、オンライン蔵書検索(OPAC, Online Public Access Catalog)を使いこなせるようにしてください。どんな勉強もまずは手元の資料を調べることからです。見たい本や雑誌が図書館になかったとしても、たとえば先生がお持ちだということが分かるかもしれません。反対に、学内で所蔵していないと分かれば、申し込みをすると、図書館を通じて他の機関から、文献複写(コピー)や現物貸借といった形で取り寄せることができます。本学のOPACには、検索機能だけでなく、画面上から貸出中の図書に予約をかけたり、自分の利用状況の確認ができるというおまけもついています。

蔵書検索の他に、図書館にはいろいろなデータや文献情報などを調べるための参考図書、CD-ROMやオンラインデータベースがあります。それぞれの特徴を知って効果的に利用し、必要な情報を、無駄なく的確に収集することを目標に、できるだけいろいろなものを使ってみると良いと思います。分からないことは、どんな種類のことでよいから、近くにいる職員をつ

かまえて遠慮せず聞いてください。そう、職員にいろいろたずねて教えてもらうのも、実は図書館を使いこなすための近道なんです。ものによっては、研究室の先輩や先生のほうが詳しい使い方を知っていることもあります。周りを見渡して、聞ける人にはどんどん聞いてみましょう。きっといろいろ教えてもらえると思いますよ。

次に心がけてほしいのが、図書館で受けられるいろいろなサービスを知ることです。前述の文献複写依頼や、必要なときにいつでも入館できる24時間開館システムは良く知られていますが、たとえば図書の購入希望など、あまり知られていないものもあります。図書館のパンフレットやホームページを見たり、職員に聞いてみて、これは便利かなと思うものがあれば、ぜひ利用をお勧めします。それから、附属図書館のインターネットホームページ(<http://www.lib.tut.ac.jp>)は要チェックです。こまめに見ていると、新しいサービスについていち早く知ることができますし、OPACや電子ジャーナル、文献情報検索など、ほんの一部ですが、インターネットにより、図書館にいるのと同じように利用できるものがあります。一度ホームページを覗いてみてください。今後は、電子化されてインターネットで提供される情報が増えていくことでしょう。

さて、ここまで、勉強中心に話をしてきましたが、図書館は勉強のためだけの施設ではありません。息抜きのため、ときにゆったりとくつろいで本や雑誌を読むのもよいものですし、地図や時刻表を調べたり、インターネットで世界の情報を集めたり、新聞を読んだり、使い方はいろいろです。図書館利用に限らず、自分から関心を持っていろいろためしてみるの、何事につけても上達のポイントのような気がします。

それでは、これから学業を終えられるまでの数年の間に、どうか積極的に図書館を利用し、親しんでください。そして、その機能を活用して皆さんの学生生活に役立てていただけたら、と願っています。

(図書課情報サービス係)

退官にあたって

北 川 孟

平成 11 年 4 月に図書館長に就任して瞬間に 2 年経過し、本年 3 月に停年退官の時期を向かえることになった。この間、私と同時に着任した図書課長をはじめ、ベテランの司書の方及び若い図書課の方々の、力強い支援と協力を得た。おかげで無事職責を果たすことができ、ここに改めて謝意を表したい。

私の在任中も、図書館情報化の流れは益々進み、その対応に大きな関心を持たざるを得なかった。ここで電子図書館 (Digital Library) について、所感の一端を述べたい。

各大学で平成 8 年ごろ始まった電子図書館化の波も一段落し、次の目標を模索する段階にある。従来の電子化は、人的資源、技術資源及び予算等の有機的結合を目的とし、図書館組織を他の学内組織と融合、合体することであった (北 克一「情報の科学と技術」)。この試みは十分に所期の成果を達成したが、その機能のほとんどが本質的に計算機援用の域を出なかった。今までの電子図書館の軸である、蔵書検索、各種 Document Delivery や Archives の Digital 化等の項目を、分類・整理すると表のようになる (「学術情報等の提供」に関しては、本学では約 25 年さかのぼった時点から始まる)。現状の受信・蓄積及び発信情報電子化の対象は、過去の資源に限定されている。本来電子図書館 (Digital Library) とは、計算機援用図書館 (Computer Aided Library) に付加価値 (α) をもたせたものであろう。 α にどのような機能を付加すべきか。電子図書館は、「図書館にとって構築すべき手段の抽象名辞である。したがって目的と戦略の数だけ電子図書館の諸相が考えられる」(北 克一)といわれる。井上如氏 (文部省学術情報センター、現・国立情報学研究所、元副所長・名誉教授) は、「フローから始まるのが電子図書館で、蓄積・検索から始まる取り組みとはスタートから違う」(「情報管理」)と述べている。確かに、現状はフローから始まる電子図書館とは大きくかい離している。この説にしたがうならば、表において、現時点だけでなく、将来も予測した情報の受信・発信に α の意義を求めべきであろう。

計算機援用図書館に具体的にどのような付加価値を与えるべきか、現状では、各大学とも模索段階である。具体的目標として、「学内外の連携強化のためのネットワーク整備」、「情報リテラシー教育への支援」等が上げられている。後者については、情報工学関係の教官と共同で、または教官の補助として情報検索の授業に参画するケースが多い。

一方図書館の情報化は、基本である司書業務と不可

分の関係をもつ。いかに進んだ電子図書館においても、司書業務は図書館の軸である。電子図書館化にあたって、本学でも、司書の方々の積極的な参加と発言を期待したい。

本学図書館も計算機援用化に関する限り、決して他大学に遅れていない。蔵書検索に関しても、当初からカードレス・システムを採用した。したがってフォーマット変更による入力修正はあるにしても、遡及入力

電子化の内容

発信、受信された時期 (t)	受信・蓄積情報の Digital 化	発信情報
t << 0	Archives の Digital 化	—
t < 0	OPAC (蔵書検索) ¹⁾	学術情報等の提供 ²⁾
t = 0-	—	各種 Document Delivery ³⁾
t = 0+	—	—
t > 0	—	—
t >> 0	—	—

- * 1) OPAC 改善の内容：遡及入力の推進、主題から検索の支援、User Interface の改善等
 2) 学術情報等：学位論文、科研費報告書、各種報告書、審誌情報、索引情報、文献 Data Base、全文情報、Internet 上の Video on Demand 等
 3) 各種の Document Delivery：利用案内、News Letter、購入・複写申込の On Line 化等

の面で有利である。情報サービスの面では、予算面の制約もあり、二次資料主体となっているが、それなりに機能している。今後は、電子図書館としての本学固有の付加価値を追求すべきであろう。先ず他の学内組織と融合、合体を一層押し進め、全学的により効率的、機能的な運営を達成すべきである。これは計算機援用レベルにあるにしても、分かりやすい効果を発揮する。また学内連携強化のネットワーク整備の目的に沿ったものである。その上で、図書館として主体性のある α を策定することが要求されよう。

最後に、本学附属図書館が、教職員及び学生諸君に一層魅力ある図書館として発展し、併せてそれが本学の躍進の礎となることを念願する。

(前図書館長)

Information

本学図書館からの学外への文献複写依頼方法について (学術情報係)

自分に必要な文献が見つかったときは、間違いのないように記入し、図書館レファレンス・デスクにお持ち(送って)ください。学内所蔵の有無をきちんと確認してから申し込んでください。

下記は、現在可能な4種の文献複写依頼方法ですが、原則として、学生は、2-①を利用してください。これは、直接書き方をお教えしたり、どのくらいの日数で入手出来るかを確認していただくためです。

1. まずOPAC (学内蔵書検索) で本学の所蔵を確認する

- ① 図書館内の専用端末で検索
- ② 図書館のホームページ (<http://www.lib.tut.ac.jp>) のOPACを利用する

2. 文献を依頼する

- ① 所定の文献複写申込書(黄色)に記入する
申込書は図書館受付カウンターまたはレファレンスデスクでもらってください
- ② e-mailで申し込む
図書館ホームページの利用案内のページにフォーマットがあります
- ③ 図書館システムLIMEDIOから申し込む
蔵書検索 → OPAC → 文献複写依頼
(ID、パスワードが必要)
- ④ 外国雑誌・目次データベースSwetScanから申し込む
図書館ホームページの情報検索のページからアクセスできます。
(SwetScanで検索したものに限り)

注1) 文献複写が到着しますと、学生は電話およびe-mailでお知らせしますので、連絡を受けたら早めに取りに来てください。教職員の場合は学内便で送ります。

注2) BUNSOKU(科学技術文献速報CD-ROM版)またはCAonCD(Cheical AbstractsのCD-ROM版)等で検索した場合は、必ず記事番号やアクセスナンバー等を記入してください。文献を申し込む際に必要です。

例: M99012200 = 機械編 99年版第1号2200番目の記事

P D F (Powder Diffraction File)CD-ROM 版について (学術情報係)

P D F (Powder Diffraction File) は、粉末X線解析による物質の同定に使用するデータ集です。カード番号、鉱物名、物質名、3強線などから検索できます。開館時間内に図書館のCAonCD専用端末で利用できます。

O U P 電子ジャーナルトライアルについて (学術情報係)

O U P (Oxford University Press) の電子ジャーナルが国立情報学研究所より試験提供され、平成14年3月31日までトライアルとして利用できます。

図書館のホームページの電子ジャーナルのページからアクセスしてください。

外国雑誌購読中止にともなう電子ジャーナルの利用中止について (学術情報係)

2001年の外国雑誌購読中止にともない、一部の電子ジャーナルが利用できなくなりますのでご注意ください。詳細については図書館ホームページの電子ジャーナルのページをご覧ください。

新規に登録された電子ジャーナルについて (学術情報係)

J. Materials Research と Neural Computation の電子ジャーナルが新規に利用可能になりました。

国立大学図書館間共通閲覧証の廃止について (学術情報係)

他の国立大学図書館を利用する際に教職員と大学院生に発行していましたが国立大学図書館間共通閲覧証が廃止されることとなり、学生証・身分証明証の提示に変わりました。また、学部学生については従来どおり紹介状を発行しますので受付カウンターへお申し出ください。

図書館利用マナー 10 箇条

(1) 館内での飲食は厳に慎みましょう！

館内での飲食は絶対にしないでください。図書や資料が汚損され、図書館の環境が保持できなくなります。飲料水やガム、キャンデーも禁止です。ペットボトルなども含め飲食物の館内持ち込みもしないでください。

(2) 喫煙は厳禁です！

図書館内で、最も遵守すべき事項です。特に、特別開館では職員がおりません。火災等の非常事態を考えた場合、図書館の開館すらできなくなります。皆さんの図書館です。お互いに注意し合って気持ち良く利用しましょう。

(3) 私語・雑談は他の人に迷惑です！

図書館は、文献調査、読書、学習等の場です。静かに読書している人の立場に立って、私語・雑談は控えましょう。グループで議論したい場合は、グループ研究室などを利用してください。図書館の静かな環境を守りましょう。

(4) 携帯電話は使用しないでください！

電話の声は、周囲の人に特に耳障りです。図書館の中では特に響きます。受信音も気に障りますから、館内では電源を切ってください。どうしても電話する必要がある場合には館外に出て使用してください。

(5) 不正入館は絶対しないように！

一人のカードで入館ゲートを複数名で通る人達があります。ゲートは一人ずつ通ってください。特に、特別利用の正しい入退館は防犯上からも重要なことです。図書館の適正な管理・運営のため、ぜひ守ってください。

(6) 盗難に注意してください！

場所確保などのために、鞆や貴重品等を閲覧机に置いたままにする人がいます。場所取りは禁止されています。また、盗難も起きています。資料探しなどで少し席を立つ場合でも、貴重品は身に付けるなど注意しましょう。

(7) パソコンにいたずらしないでください！

パソコンのソフトが消されたり、設定が変更されたりすることがあります。パソコンは、図書館利用者の皆さんが利用するものです。他の人に迷惑になるようないたずらはしないでください。

(8) 閲覧した図書等は元の位置に戻しましょう！

図書館の資料・文献は全学の皆さんが利用するものです。正しい位置に戻されていないと利用に支障をきたします。利用後は元の位置に必ず返しましょう。また、閲覧に際しては、図書等を汚損や破損しないよう大切に扱ってください。

(9) 貸出期限を守ってください！

図書・資料等は、適正な利用によって皆さんが有効に活用できるものです。他の人の迷惑にもなりますので、返却期限は必ず守ってください。延滞しますと貸出禁止の措置がとられます。

(10) 駐車禁止区域の駐車はしないように！

図書館利用者が図書館付近の駐車禁止区域に駐車する人がいます。学内には駐車場が完備されています。駐車違反は多くの人に迷惑を掛けます。大学全体の管理運営にも支障をきたします。駐車違反は止めましょう。

(情報サービス係)

12.10.25 ～ 27	平成12年度全国図書館大会（会場：沖縄県立武道館ほか） 出席者 情報サービス係 前田勝典
12.12.7 ～ 8	国立大学図書館協議会シンポジウム（会場：名古屋大学附属図書館） 出席者 学術情報係長 中野洋子, 学術情報係 江口敏一
12.12.13	東海地区国立大学図書館協議会事務連絡会（会場：名古屋大学附属図書館） 出席者 教務部長, 図書課長
12.12.13	新CAT/ILLシステム講習会（会場：名古屋大学シンポジオン会議室） 出席者 学術情報係長 中野洋子, 学術情報係 江口敏一, 情報サービス係 前田勝典
12.12.13 ～ 15	目録システム講習会（会場：国立情報学研究所） 出席者 情報サービス係 鈴木明美
13. 1.18	東海地区大学図書館協議会研修会（会場：愛知教育大学学生会館） 出席者 学術情報係長 中野洋子
13. 2. 8 ～ 9	第3回高専・豊橋技術科学大学図書館業務検討会（会場：本学） 参加校 富山工業高等専門学校, 富山商船高等専門学校, 米子工業高等専門学校, 松江工業高等専門学校, 津山工業高等専門学校
13. 3. 7	第3回学術交流シンポジウム（会場：岐阜大学附属図書館） 出席者 情報管理係 黒柳裕子
13. 3. 9	東海地区大学図書館協議会研修会（会場：名古屋大学附属図書館） 出席者 図書課長

“ΑΛΗΘΕΙΑ”

図書館の入り口の壁に掲げられている
銘板のギリシャ文字“ΑΛΗΘΕΙΑ”
(アレータイア)は、「真理」を意味しま
す。

表紙デザイン

この表紙のデザインは、野澤隆秀氏（本
学卒業生・前建設工学系助手）によるも
のです。

豊橋技術科学大学附属図書館報「ΑΛΗΘΕΙΑ」第21号 平成13年4月1日

■編集・発行 豊橋技術科学大学教務部図書課

■〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 TEL. 0532-44-6562

FAX. 0532-44-6566